



ウォークラリー 「イーハトーブ花巻」(選手代表)

よこさわ しげる

横澤 繁さん

79歳

●参加歴：7回目

1点差で優勝！ 「夢は叶う」と実感

私たちのチームは「ねんりんピック富山2018」への出場を目指して編成し、チーム名を花巻市の童話作家・宮澤賢治の作品の言葉にあるイーハトーブ(理想郷)より「イーハトーブ花巻」としました。

チーム員は地域でウォークラリー大会の企画・運営に永年携わっていましたので、とやま大会では優勝を狙いましたが、優勝を意識し過ぎて冷静な判断ができず惨敗。本大会はとやま大会の二の舞にならぬよう、私がウォークラリーの発祥の地「静岡県立三ヶ日青年の家」で考案者の渡邊佳洋先生から講習を受けたことをもとに研修会を実施し、さらに、岩手県選手団の結団式で披露するダンスの練習も始めました。総合開会式前日の岩手県選手団結団式ではダンス「青春」を踊らせていただき、出席者からの盛大な拍手にチームの士気が高まりました。翌日の総合開会式のメインアトラクションが同じく「青春」で、この時に優勝の予感がしました。

翌日のウォークラリー交流大会では、通常ルールは「ゴール手前で回答する観察ゾーンを設定する」のですが、今回はコース全体から観察問題を出すとの事前説明があり、経験したことのない難しいコースになると感じました。隠しタイムを予想し、座間市長のピストルの号砲で出発。チェックポイントの問題は全チームとも高得点が取れるもので、勝負は観察問題と時間得点となると思われ、約50分経過した時に逆回りのトップチームと交差したことから歩行速度を修正しました。その後、コマ図から時間予測を再修正して少し急ぎ足でゴール前に到着しました。提示された観察問題は予想もしてい

なかった内容で、予測時間寸前であったことから急いで回答を記入してゴールしました。表彰式では予想時間通りゴールしたことにより時間得点は満点でしたが、観察問題は間違ってしまう総合点は10点減点。しかし、2位と1点違いで「優勝の夢」が叶いました。

勝因は、チーム全員がウォークラリーを理解し、コマ図の見方や観察ポイントに精通しており、コミュニケーションが図れた余裕のある楽しい歩きになったことと思われます。開始式会場で渡邊佳洋先生が記念撮影をされており、私がシャッターを押したことも「優勝の運」を呼んだのかなと思います。他チームとも交流でき、座間市の風土・自然に多くふれて歩く楽しさを味わうことができました。チーム全員、この優勝を糧にして「ねんりん世代」にウォークラリーの楽しさを伝えたいと張り切っております。



座間市長から賞状を授与。(右から3番目)



表彰式の壇上でアテンダーと。(写真中央)